

本隆寺

【伝説】

本隆寺は、1488年に日真と呼ばれる僧侶によって創設された法華宗真門流の総本山です。1658年に再建された本堂と祖師堂は、1788年に辺りを焼け野原にした火事にも耐えた、西陣における数少ない木造建築物です。これら仏堂は、重要文化財に指定されています。

春になると境内に多くの桜が美しく咲き乱れます。付近に林立する背の高い松の木には癒しの力があると考えられており、その樹皮や葉を子供の枕の下に入れると、夜泣きが止むと言われています。

本堂前の井戸は寺院よりも古く、13世紀の貴族出身の尼僧である無外如大がそこで悟りを開いたと言われています。彼女は尼寺の最初の住職で、女性禅師の先駆けであり、当時最も影響力のある僧侶の一人でした。